

那須連山は、標高が高い場所には樹木が少ないが、夏になると斜面に新たな生長が見られる。6月中旬に茶臼岳（1,915 m）に花が咲く。レンゲツツジ、マルバシモツケ、ウラジロヨウラクの淡紅色の釣鐘型の花などがある。ヨーロッパのエーデルワイスの仲間のウスユキソウと呼ばれる花は、7月と8月に咲く。名前の意味は「薄い雪の植物」で、その白い葉が雪をかぶっているように見えることに由来している。那須連峰に生息する鳥の中には、イワツバメ、イワヒバリ、アマツバメなどがいる。

6月下旬から7月中旬に沼沢原湿原を訪れると、ニッコウキスゲの開花により黄色に染まった湿地が見られる。7月上旬には、ノハナショウブの濃い紫色の花びらが現れ、その後、本州の中部の山岳地帯にしか見られないシモツケソウの山草種であるアカバナシモツケソウのレースピンク色の群生が続く。

低地では、オオジシギ、アカハラ、ウグイスがさえずり合う。めったに見られないが、那須に生息するヘビがいる。シマヘビ、アオダイショウ、ヤマカガシ、そしてマムシである。後者の2種類のヘビは有毒であるが、ヤマカガシは非常に臆病である。そしてマムシは那須では北部の限られた地域でしか見られない。蛇との遭遇が稀であるとしても、裸足でハイキングするのは避けた方がよい。

開発、汚染、殺虫剤が地球規模でホタルを脅かしているが、那須のきれいな水路にはまだホタルが何種類か生息している。ゲンジボタル、それより少し小さいヘイケホタル、オバボタルが夏の夜を照らす。

ヒラタケ、ムキタケ、ナラタケなど、さまざまな種類のキノコが余笹川沿いの渓谷に生えている。別の種であるツキヨタケは、暗闇でほのかに緑色に輝く。ツキヨタケは食用のヒラタケとよく似ているが、有毒である。